

令和7年度予算総括質疑の概要

令和7年第1回二宮町議会定例会

日時 令和7年3月4日(火) 午前9時30分より

No.	質問議員	質問の概要(本人の提出原稿)
1.	松崎 健議員	<p>令和7年度施政方針に基づき以下、質問させていただきます。</p> <p>●公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり</p> <p>・役場新庁舎建設を巡っては、町債返済に30年程度要するとしている。財政見直しにおいて「持続可能な行財政運営を行うため、長期的な展望に立った財政見直しを策定する」とする一方、令和6年度から令和15年度までに10年間しか策定されていない。「二宮町人口ビジョン」において、今後30年間、町の人口は減少(30%減少)、とりわけ生産年齢人口の減少(41%減少)が著しい。にも拘らず今後10年間しか見直しを策定せず、しかもその10年間において「町税総額は緩やかな減少基調」とするのは希望的観測であり非現実的ではないか。</p> <p>・ラディアン・図書館の長寿命化を巡っては、令和10年度のリニューアルオープンまでの一定期間、少なくとも一部の施設が使用が出来なくなるものと考えが、その間の代替施設は用意されるのか。また、ラディアンの特定天井の点検の結果を公表すべきと考えるがいかがか。</p> <p>●子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり</p> <p>・令和5年度から施設分離型小中一貫教育校「にのみや学園」がスタート。一方、二宮町小中一貫教育推進計画(令和4年4月)において適正な学校規模の確保の必要性に言及するとともに、教職員の多忙化解消も課題であるとすほか、「二宮町教育施設長寿命化計画(令和3年3月)」の記載を引用のうえ、現在の小・中学校の建物の5校体制維持は困難であり建物の整理・統合の必要性に言及しています。然しながら、整理・統合の時期を巡っては同計画において「20年後(令和23年)程度を目処とする。」と述べているとして、問題先送りを示唆。一色小学校が全学年単級化している現状に鑑み、前述の課題解決に向き合う気がないのであれば、一色小学校児童数を増やす施策、例えば転入促進にしても人口減少地域への転入を促す等の対応をすべきと考えるがいかがか。</p> <p>・「英語検定料の助成」の背景には「グローバル化の進展」があるとしている。グローバル化の波は、身近なところに迫っていることを実感することが多い(移民増による社会問題、外国人観光客によるオーバーツーリズム等)が、対応を誤ると社会問題も生じる一方、うまく取り込むことで町の活性化にもつながる。町長以下、役場職員はグローバル化にどう向き合っているのか。</p> <p>・「不登校児童生徒」について、そもそも何故増加傾向にあると考えているのか。</p> <p>・「いのちの安全教育」について、施政方針のなかで「こどもたちの大切な心と体を守る」と「家庭での性教育」を結び付けているが、わかり難い表現である。背景を知らない町民の方が読んで理解できるよう説明すべきと考えるがいかがか。講座の中でLGBTQをどう扱っているのか。</p> <p>●気候変動対策による持続可能なまちづくり</p> <p>・「地球規模の環境問題」「脱炭素」「気候変動」「地球温暖化」といった一連の問題は「単なる概念」ではなく「自然科学」として論じ、「科学技術」や「生活習慣改善」により対処すべき問題であると考えがいかがか。これまでに一</p>

般質問の場において複数回にわたり本件を巡る質問をさせて頂いているが、議事録を読み返すと町長はこの問題の本質に対する理解が乏しく、単なるファッションとして捉えているのではないかとも思える。その結果「気候非常事態宣言」を発出しても、各種建設行為をはじめとする実際の振る舞いは宣言に対し真逆と言わざるを得ない。これら宣言等の作成に携わった関係者や多くの町民は、正しい理解のもと実生活を通し環境への配慮を実践していると考えるが、町長はこれら文書の発出・表明に際し、自然科学としてのバックグラウンドを正しく理解しているか。

・葛川の治水対策に向き合う町長の振る舞いを「ずぶ濡れになることなく、正装して紙一枚を知事に届け記念撮影するだけ」と表現したところ、語気を強めて不快感を露わにされました。私自身この表現を撤回する気はないのですが、令和7年度における町長の葛川治水への向き合い方は、これまでと変わるのか？変わるとすればどう変わるのか？

・「雨水貯留槽設置」に関し、自身の一般質問が一つのきっかけになったとも考えらえるが、どのような趣旨によりどの部分に補助するのか。

●誰もが自分らしく安全・安心に暮らせるまちづくり

・町は「高齢者が気楽に参加できる場」を用意しているとのことですが、そもそもこう言った場が苦手だとする高齢者がむしろ多数派ではないかとも思われます。「より多くの方が参加できるよう取り組みを進める」とのことですが、具体的に何をするのか？

・「地域におけるつながりの希薄化」について、記載されている取り組みにより解決に至ると思えない。まず取り組むべきことは地区長は「地域の代表」か「役場の一部」かはっきりさせることと考えるがいかがか。私は後者であるべきと考える。

・空家放置による環境悪化に対し、所有者が自ら対応を講ずることに消極的であっても第三者が対応することを許可する場合がある。そのような場合、近隣住民の要望を受けて町は対応する用意はあるか。

●活力があふれる、選ばれるまちづくり

・「持続可能な観光振興」について具体的に何を実施するのか。

・「有害鳥獣による農業被害」は、最近の話であり私の肌感覚では、少なくとも二宮において昭和の時代には被害はほとんど報じられていない。その背景には農業従事者の高齢化、並びに薪の需要減等により里山の管理が行き届かなくなった結果、野生動物生息地と農地との境界としての役割を果たしていた里山が機能不全を起こしていることが見逃せない原因の一つと考えるがいかがか。また、他の原因があるとすればどのようなことが考えられるか。

・イノシシの駆除に際し、猟友会の協力によるところが大きい。猟友会もしくは協力者個人に対し相応に配慮・対価を払っていると考えるか。実際に私の元には不満の声が届いている。

●企業会計

・下水道事業会計において、「内水ハザードマップ」の全世帯配布に言及している。マップは「洪水浸水想定区域図」とは別に作成するようであるが、そもそも昨年の台風10号の水害では「洪水浸水想定区域図」に内水を含んでいなかったことで混乱が生じた。大雨による水害はそれが葛川による溢水が起源であろうと内水によるものでありと被災者には関係のない事である。二宮町という狭い地域の水害はほぼ両者が同時に起こるはずであり、従って両者に対する注意喚起は個別のマップで行うのではなく、同一のマップに盛りこむべきと考えるがいかがか。

2.	羽根かほる議員	<p>物価高騰、一方で賃金の上昇、気候変動など、様々な社会状況が変化をする中、令和7年度の一般会計は過去最大の100億7,000万円との予算案が示された。こどもまんなか元年と表明している年度、また町政90周年を迎え、町長のまちづくりの方針は町民の安全安心な暮らしを守る施策となっているのか。施政方針に沿い、以下の内容について問う。</p> <p>1. 「公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり」</p> <p>①山西プールはどのように変わっていくのか。</p> <p>②消防庁舎の改修による住民へのメリットは何か。</p> <p>③駅前複合施設について記載がないが、令和7年度の状況は。</p> <p>④健全な財政運営と公共投資の両立の具体的な策は。</p> <p>⑤新庁舎整備も含め、民間への委託についてどのような考えを持っているか。</p> <p>2. 「子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり」</p> <p>①「こども・健康部」と「こども支援課」を新設することにより、どのような点が住民サービスの向上につながるのか。</p> <p>②職員による「こどもをまんなか」にしたネットワークづくりとはどのようなものか。</p> <p>③県の補助金を活用した低所得世帯の中学3年生が学習塾に通える学習進学支援とは何か。</p> <p>④こどもの権利が条例制定されると子どもたちと学校、地域そして町民はどのように変わっていくのか。</p> <p>⑤にのみや学園の施設一体型への進捗状況は。</p> <p>⑥小中5校のほっとルームに支援教育補助員を1名ずつ常駐するとあるが、このことがどのように不登校対策につながるのか。</p> <p>3. 「気候変動対策による持続可能なまちづくり」</p> <p>①「地域温暖化対策実行計画(区域施策編)」の公表とゼロカーボンシティの表明を評価するが、町民への程度の協力を考えているのか。</p> <p>②「流域治水」のハード・ソフト面から計画的に進めるとあるが、まずどの点から着手するのか。</p> <p>4. 「誰もが自分らしく安全・安心に暮らせるまちづくり」</p> <p>①地域コミュニティとしての自治会、町内活動について、役員の担い手不足はまったなしその解決策は。また、女性の地区長が少ない現状をどう考えているか。</p> <p>②女性支援について、町の相談窓口をどのようにわかりやすくするのか。また、町の相談窓口に入らない相談の把握も必要だが、どのように連携し支援を強化していくのか。</p> <p>③避難所の生活環境整備に女性の状況は適切に配慮されているか。</p> <p>④障がいのある方についての方針が打ち出されていないが令和7年度の考えは。</p> <p>5. 「活力があふれる、選ばれるまちづくり」</p> <p>①観光をきっかけとした地域活性化「観光まちづくり」とはどのようなスキームを考えているのか。</p> <p>6. 「新しい時代に向けて、しなやかに対応するまちづくり」</p> <p>①町政施行90周年記念事業。核となるイベントの方針は何か。</p> <p>②防災安全課、生活環境課、町民課で編成する町民部に期待をする役割は。</p>
----	---------	---

7. 企業会計

①下水道事業会計、内水ハザードマップの策定により、町民の安全安心はどのように変わるのか。

<p>3. 渡辺 訓任議員</p>	<p>令和7年度一般会計予算案は、初めて100億円を超える規模となっている。諸物価や人件費高騰の上昇を反映したものと考えるが、新庁舎整備などの事業が本格的にスタートする中で、くらし・教育・防災などに十分な配慮がされるかが問われる予算案である。</p> <p>施政方針でうたわれている重点的方針に沿って問う。</p> <p><公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり></p> <p>① 新庁舎整備については、前定例会で、令和9年度まで29億9800万円の債務負担行為を設定、予算案では新庁舎整備事業におよそ1億1千万円を計上している。人件費や原材料費など建設費の高騰は続くと認識するが、将来、債務負担行為の限度額に収まるのか。また、教育や社会保障に対する影響を指摘する声もあり、それらにどのように応えるのか。新庁舎整備のスケジュールも合わせて伺う。</p> <p><子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり></p> <p>② 町として、小児医療費無料化を高校卒業まで拡大するなど、子ども・子育て支援については、これまでも重要な課題として位置付け、取り組んで来たと考える。あえて「こどもまんなか元年」とされるのはなぜか。</p> <p><気候変動対策による持続可能なまちづくり></p> <p>③ 地球温暖化対策の区域施策編の策定を長く求めてきたので、この計画は大いに評価するところだ。具体的な施策をどのように考えるか。</p> <p><誰もが自分らしく安全・安心に暮らせるまちづくり></p> <p>④ 葛川治水対策として、大きな予算を計上している。大規模な治水工事には長い時間を要すると考える。議会もいつでも起こりうる災害への対応として「減災」を進めることを求めている。今回の対策は、どのような事態を想定しての対策なのか。</p> <p><活力があふれる、選ばれるまちづくり></p> <p>⑤ 農地の有効利用や新規就農の支援の重要性が指摘されて久しい。地産地消、地域循環経済の活性化という観点から、農業の位置づけはどのように考えているか。</p> <p><新しい時代に向けて、しなやかに対応するまちづくり></p> <p>⑥ 町職員の働き方改革について特別に触れられていないが、現在の職員の働く環境をどのように捉えているか。また、介護や町民団体など、多くの場面で担い手不足がさらに深刻になっていると感じているが、町としての取り組みはどうか。</p> <p>物価高騰・人手不足が、施政方針の最後に触れている。町民の暮らしをとりまく状況と暮らし向きについてはどのように捉えているか。</p>
-------------------	---

<p>4. 一石 洋子議員</p>	<p>日本の深刻な少子化対策としてこども家庭庁は令和 4 年、ようやく子どもの権利を土台に据えこども基本法を制定、子ども施策を行うこども家庭庁を設置し、北欧並みの予算を投じ、あらゆるライフステージにおけるウエルビーイングを保障する政策を展開するとした。令和 7 年度は子ども、若者、そしてそのサポートに係る方々のために質の高い、濃厚な子ども施策を実行するとしている。</p> <p>また気候変動による激甚化する風水害は想定外の短い時間の集中豪雨をもたらし、西湘地域にかつてない溢水、崩落の被害をもたらした。</p> <p>さらに日本周辺の世界の状況は混迷を極め、人権侵害の最たる戦争が歴然と継続し、既存の制度ではもはや未来への道筋が描けない状況に国際社会が揺れ続けている。</p> <p>政治の役割が厳しく問われる局面に地方自治体の覚悟や新たな役割が問われる時代となった。</p> <p>二宮町は昨年 12 月議会で新庁舎建設実施設計に進む予算が可決。積年の課題解決に向けた行政の責務を果たす覚悟に議会の信任を得た。</p> <p>また、議会教育福祉常任委員会が研究、求めた子ども権利条例制定の動きをボトムアップと共に進め、気候市民会議の協働と並ぶ成果も活かす、防災減災と子ども真ん中まちづくりについての町長の施政方針の趣旨と様々な施策は歓迎する。</p> <p>しかしながら、政策の具体に現在の危機的状況に対する大きな変革の兆しがあるのか。</p> <p>二宮のポテンシャルを的確に評価し、オリジナルな挑戦を如何にしていくのか、令和 7 年度予算案について以下の重点施策を中心に未来に向けた政策、戦略を問う。</p> <p>① 公共施設の利便性、機能性を高めるまちづくり 数十年先を見据えた投資であるため町民を啓発するモデル性や循環型社会に向けた仕掛けが必要だ。新庁舎・生涯学習センターの整備における先進性を確認する。</p> <p>② 子どもの笑顔がかがやく、子育てと教育のまちづくり 子育てと教育の町としての二宮のポテンシャルを発揮すべき時と考えている。</p> <p>全国的に個別最適な発達をこどもの権利の立場から支える新しい当たり前をつくるチャレンジが求められる状況で文科省も推進してきたことは二宮の教育後援会でも共有された。</p> <p>教育福祉常任委員会でも長野県の先進 2 校を視察し議会で共有してきた。</p> <p>施設一体型にとどまらず、先進的な魅力ある学校づくりについては、これまでの町長答弁から、施設一体型小中一貫教育校設置研究会が議論の場になるとのことであった。この 3 月に提言書が出される。令和 7 年度予算ではまなびの教室やほっとルームの支援教室補助員の増員で不登校児童生徒対策としているが 100 人を超える不登校児童生徒の、また目の前の幼い子どもたちのウエルビーイングを支えるに本質的な手立てなのか。</p> <p>子ども真ん中まちづくりに公教育の改革は必須である。施設一体型小中一貫教育校設置研究会は行政の限界に忖度していないか危惧するところだ。</p> <p>増え続ける不登校児童生徒、さらに孤立化、ひきこもりとなる若者の増にいかに対応し、さらに新しい社会の作り手をいかに育てるかという視点を</p>
-------------------	--

		<p>確認したい。</p> <p>③ 気候変動対策による持続可能なまちづくり 流域治水の推進は歓迎する。 雨水の浸透に時間をかけるグリーンインフラ等の普及対策と世界共通のリジェネレーション(これまでの社会の仕組みやあり方を見直し壊れたものを再生させる長期スパンの建設的なウエルビーイングの実装)への見通しと政策が流域治水の推進に活かされるべきと考える。 また風土再生に係る人を増やし、里山・農地再生を図ることが観光や関係人口の向上にも資する。 さらに気候こども会議を通して生涯学習の視点から環境・食、減災の生き生きとした放課後の学びにもつなげる視点も重要だ。 環境+減災というフェーズをしっかりと受け止め若い世代の参画につなげる見通しが欲しい。 流域治水の取り組みの見通しを問う。</p> <p>④ 誰もが自分らしく安全・安心に暮らせるまちづくり 超高齢化社会の進展に伴う高齢者や障がい者の社会参加や自立支援等更なる福祉施策の充実が求められるとある。 重層的課題を抱える多様な町民のセーフティネットの強化の見通しと神奈川県保健福祉事務所との連携をいかに捉えているか。</p> <p>⑤ 活力があふれる、選ばれるまちづくり 観光協会の法人化支援は歓迎する。 いわゆるまちづくり会社として地域資源を集め生き生きと生かす行政ではできなかった創造的な展開を期待したい。現時点での見通しを問う。</p>
--	--	--

備考：2番目以降の質疑開始時刻は、直前の質疑終了後となります。
本人の通告書の原稿を転記したものです。